

執筆者略歴 (2023年4月現在)

ニック・ビズリー (ラ・トローブ大学人文社会科学部長・国際関係教授)

現在はオーストラリア文学・社会科学・人文学部長協議会会長を務める。2020年にはオーストラリア国際問題研究所フェローに選出。アジア太平洋安全保障協力会議メンバー。2013年から2018年まで、国際関係分野で豪州最古の学術誌 *Australian Journal of International Affairs* の編集長を務め、国際戦略研究所上級研究員、イースト・ウエスト・センター (ワシントン DC 支部) 客員研究員を歴任。*The Belt and Road Initiative and the Future of Regional Order in the Indo-Pacific* (Rowman and Littlefield, 2020)、*Issues in 21st Century World Politics, 3rd Edition* (Palgrave, 2017)、*Great Powers in the Changing International Order* (Lynne Rienner, 2012)、*Building Asia's Security* (IISS/Routledge, 2009, Adelphi No. 408) 等、著書多数。ガーディアンやウォール・ストリート・ジャーナル、CNN、タイムズ等、国内外のメディアへの定期的な寄稿に加え、同氏の見解はこうしたメディアで度々引用されている。

由冀 (西安交通リバプール大学国際関係教授)

北京大学にて学士号、オーストラリア国立大学にて博士号取得。中国蘇州・西安交通リバプール大学国際関係教授。マカオ大学非常勤教授 (2020年まで同大政治・行政学科長)。近著の *China's Military Transformation: Politics and War Preparation* (Cambridge, Polity Press, 2016) 等、英語の著書4冊。ほかにも、“How Xi Jinping Dominates Elite Party Politics: A Case Study of Civil-Military Leadership Formation,” *The China Journal*, Issue 84, 2020、“Sino-US Geostrategic Battle in Asian Maritime Domains,” in Bitzinger, R., and Char, J., (eds.), *Reshaping the Chinese Military*, Routledge, 2019、“The Nexus of Land and Sea: The Shaper of Future Indo-Pacific Forces,” *Australian Army Journal*, Vol. 14, No. 3, 2018、“The Geo-strategic and Military Drivers of China's Belt-and-Road Initiative,” *The China Review*, Vol. 20, No. 4, 2020、

“Indian Ocean: A Grand Sino-Indian Game of ‘Go,’” in David Brewster (ed.), *India and China at Sea*, Oxford University Press, 2018, “The Political and Military Nexus of Beijing-Washington-Taipei Interactions in the Taiwan Strait,” *The China Review*, Vol. 18, No. 3, 2018, “China’s National Security Council: Evolution, Rationality and Operations,” *Journal of Contemporary China*, Vol. 25, No. 98, 2016, “Sino-US ‘Cat-and-Mouse’ Game Concerning Freedom of Navigation and Overflight,” *Journal of Strategic Studies*, Vol. 39, No. 5-6, 2016, “Xi Jinping and PLA Centrality in Managing the South China Sea Disputes,” *China: International Journal*, Vol. 15, No. 2, 2017等、論文多数。また、*The China Journal*, *Issue and Studies*, *Journal of Contemporary China*等、八つの学術誌の編集委員会メンバーを務める。

山添 博史 (防衛研究所地域研究部米欧ロシア研究室主任研究官)

ロシア安全保障政策と東アジア国際関係史を専攻。業績は「ロシアの古典的な大国構想——遠のく「勢力圏」——」増田雅之編著『大国間競争の新常態』（防衛研究所、2023年）、「ロシアのウクライナ侵攻」増田雅之編著『ウクライナ戦争の衝撃』（インターブックス、2022年）、「中央アジア・ロシアから見た中国の影響力拡大：ユーラシア空間における協力と自律性の追求」『中国安全保障レポート2020：ユーラシアに向かう中国』（防衛研究所、2019年）、「ロシアにとっての戦略的安定性問題」『ポスト・プーチンのロシアの展望』平成30年度報告書（日本国際問題研究所、2019年）、「ユーラシア帝国ロシアの境界問題と幕末日本」友田昌宏編『幕末維新期の日本と世界：外交経験と相互認識』（吉川弘文館、2019年）、「Sino-Russian Cooperation from the Perspective of the U.S.-Japan Alliance,” *Asia Policy*, National Bureau of Asian Research, January 2018; “The Prospects and Limits of the Russia-China Partnership,” *RUFBS Briefing* (Swedish Defence Research Agency), No.32, December 2015; 「ロシアの東方進出と東アジア——対露境界問題をめぐる清朝と日本」岡本隆司編『宗主権の世界史』（名古屋大学出版会、2014年）、『国際兵器市場とロシア』（東洋書店、2014年）な

ど。2005年にロンドン大学スラブ東欧研究所でロシア研究修士、2008年に京都大学人間・環境学研究科で博士号を取得。

エドワード・ルトワック (ワシントン・ストラテジック・アドバイザーズ代表)

米国政府及び一部同盟国の契約アドバイザー。アマゾンの牧場主。この分野のセキュリティ請負業者。著書に、*The Rise of China viz. the Logic of Strategy*、*Strategy: The Logic of War and Peace*、*Coup d'Etat*、*The Grand Strategy of the Byzantine Empire* (全て Harvard University Press)。英語以外にも28の言語で出版されている。1942年、ルーマニア・バナト州アラド生まれ。シチリアのパレルモと英国で教育を受ける(1964年、ロンドン・スクール・オブ・エコノミクスで経済学士号取得)。英国で勤務し、その後イスラエルで志願兵及び契約職員としてイスラエル国防軍に従事。1972年に米国の大学院に進学。1975年、ジョンズ・ホプキンス大学から博士号取得(*The Grand Strategy of the Roman Empire*, JHUP/フランス語、中国語、ロシア語等でも出版)。1975年から米国国防総省長官直属部及び米国海軍のコンサルタント。1977年1月26日、議会法による米国籍取得。

アリエス・アルゲイ (フィリピン大学ディリマン校政治学部長・教授)

Wiley-BlackwellとPolicy Studies Organizationが発行する学術誌 *Asian Politics & Policy* の編集長も務める。フィリピン公安大学シニアフェロー(2016年から同大で教鞭を執る)、東南アジア研究所/ユソフ・イシャク研究所(シンガポール)フェロー、Social Weather Stationsフェロー。カーター・センター、マヨール・デ・サン・シモン大学(ボリビア)、チュラロンコン大学(タイ)、シドニー大学(オーストラリア)、済州平和研究院(韓国)、ミシガン大学アナーバー校(米国)、防衛研究所(日本)の客員研究員を歴任。マニラを拠点とする新たな独立系シンクタンク Foundation for the National Interest, Inc. の評議会メンバー兼会計担当。その他、ASEAN戦略国際問題研究所連合やアジア太平洋安全保障協力会議など、様々なトラックII外交メカニズムにも参加している。Asia Pacific Pathways to

Progress Foundation 及び Institute for Strategic and Development Studies の元フェロー。2014年にフルブライト奨学生としてジョージア州立大学(米国)から政治学博士号を取得。フィリピン大学ディリマン校で政治学の修士号と学士号(優等)を取得。2020年、フィリピン国家科学技術院により、「政治学の研究、特にフィリピンとアジアにおける民主化プロセス、治安部門改革、戦略研究に対する貢献」が認められ、優秀若手科学者賞(政治学)を受賞。

ジャガンナート・パンダ(スウェーデン安全保障開発政策研究所ストックホルム・南アジア・インド太平洋センター長)

YCAPS(日本)欧州アジア研究協力ディレクター。ハーグ戦略研究センター(HCSS/オランダ)シニアフェロー。米国議会の米中経済・安全保障調査委員会で参考人を務めた経験を持つ。インド太平洋地域の安全保障と中国の上級専門家として、Routledgeの書籍シリーズを指揮し、*Routledge Studies on Think Asia*のシリーズ編集者も務める。著書に、*India-China Relations* (Routledge: 2017)、*China's Path to Power: Party, Military and the Politics of State Transition* (Pentagon Press: 2010)、近著に、*Chinese Politics and Foreign Policy under Xi Jinping* (co-edited: Routledge 2022)、*Quad Plus and Indo-Pacific* (Routledge: 2021)、*Scaling India-Japan Cooperation in Indo-Pacific and Beyond 2025* (KW Publishing Ltd. 2019)、*The Korean Peninsula and Indo-Pacific Power Politics: Status Security at Stake* (Routledge, 2020)がある。*The Future of the Korean Peninsula: Korea 2032 and Beyond* (Routledge, 2021)の共同編集者も務めた。

佐竹 知彦(青山学院大学国際政治経済学部准教授)

慶應義塾大学法学部卒業後、同大学大学院法学研究科修士課程、オーストラリア国立大学太平洋アジア研究所博士課程修了(政治学・国際関係論)。2010年防衛研究所入所、2015年から同研究所政策研究部主任研究官、同政策シミュレーション室主任研究官等を経て、2023年4月から現職。その間、防衛省防衛政策局国際政策課部員(多国間の安全保障担当)、慶應義塾大学法学部非常勤

講師、オーストラリア国立大学豪日研究センター客員研究員、法政大学グローバル教養学部非常勤講師、一橋大学法学部非常勤講師等を歴任。専攻はアジア太平洋の国際関係、豪州や日本の外交安全保障政策等。最近の著書として、『日豪の安全保障協力―「距離の専制」を越えて』（勁草書房、2022年）、「ウクライナ戦争と豪州―民主主義 vs. 専制の弧」増田雅之編著『ウクライナ戦争の衝撃』（インターブックス、2022年）、「大国間競争のなかの豪州―同盟と地域の狭間で」増田雅之編著『大国間競争の新常態』（インターブックス、2023年）など。

令和4年度安全保障国際シンポジウム
「大国間競争の新常態—米中露関係とインド太平洋地域」

2022年12月7日(水) オンライン形式

9:00～11:00 第1セッション「米中対立とロシア・ファクター」

議長：**兵頭慎治**（防衛研究所政策研究部長）

司会：**新垣拓**（防衛研究所米欧ロシア研究室主任研究官）

報告：**ニック・ビズリー**（ラ・トロープ大学人文社会科学部長・国際関係教授）

由冀（西安交通リバプール大学国際関係教授）

山添博史（防衛研究所米欧ロシア研究室主任研究官）

討論：**増田雅之**（防衛研究所政治・法制研究室長）

11:10～ 基調講演

エドワード・ルトワック（ワシントン・ストラテジック・アドバイザーズ 代表）

14:00～16:00 第2セッション「翻弄される周辺国・地域」

議長：**兵頭慎治**（防衛研究所政策研究部長）

司会：**石原雄介**（防衛研究所グローバル安全保障研究室主任研究官）

報告：**アリエス・アルゲイ**（フィリピン大学ディリマン校政治学部長・教授）

ジャガンナート・パンダ（スウェーデン安全保障開発政策研究所ストックホルム・南アジア・インド太平洋センター長）

佐竹知彦（防衛研究所防衛政策研究室主任研究官）

討論：**庄司智孝**（防衛研究所アジア・アフリカ研究室長）